様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ４ 月　 ７ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３７０７５０

研究課題名（和文）近代日本のアジア認識とインド―岡倉天心とインド知識人の交流から

研究課題名（英文）Concepts of Asia in Modern Japan and India

研究代表者
外川　昌彦（TOGAWA, Masahiko）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：７０３２５２０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果の概要として、4年間の研究期間を通して、国内・海外での積極的な成果の発信を行い、国内外の学会、研究会、招待講演などは累計で49回を数えた。そのうち、海外からの招待講演は、インドのアジア協会、デリー大学、国立タゴール国際大学、バングラデシュのバングラ・アカデミーからの招聘など、12件を数えた。また、国内では5件の招待講演を行い、国際人類学・民族学連合大会、国際ベンガル学会、日本文化人類学会、日本宗教学会など、内外の学会での成果の報告を行った。関連成果の業績として、査読付き論文は8本、分担執筆の図書6本、共編著の図書2本、編著は1本を数えた。今後は、成果の体系化を進める計画である。

研究成果の概要（英文）：Deuring the cource of the reserch project from 2013 to 2016, it counts 49 times of presentations on the outcomes of the research at the various academic conferences and research meetings including invitation lectures. Invitation lectures from abroad count 12 times including Asiatic Society (Kolkata), Delhi university, Visva-Bharati university (Shantiniketan), and Bangla Academy (Dhaka, Bangladesh), and 5 times in Japan. Regarding the academic conference, it includes IUAES, Internationa Congres of Bengal Studies, Japanese Association for Cultural Anthropology, and Japanese Association fore Religious Studies. 9 articles with peer-review for the academic journals, 6 co-authored books, 2 co-editored books, and an editored book are published.

研究分野：文化交流

キーワード：インド　ベンガル　文化交流　文化史　タゴール　岡倉天心　スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ

１．　　研究開始当初の背景

岡倉天心は、1902 年に英領インドの首都コルカタを訪問し、近代インドを代表する宗教思想家スワーミー・ヴィヴェーカーナンダや、ノーベル賞を受賞した文学者ラビンドラナート・タゴールらの、インドの知識人との交流を深めた。そのインド体験を通して天心は、アジアの諸文化に共有される普遍性を自覚し、それを『東洋の理想』(1903)に著した。

他方、ヴィヴェーカーナンダやタゴールにおけるアジア認識の形成にも、近年のベンガル語の史料研究によれば、天心との交流を通した様々な思想的な影響関係が認められる。

２．研究の目的

本研究は、このようなインド世界を媒介として導き出された岡倉天心のアジア認識を検証し、これまで十分には解明されてこなかった近代インドの知識人との交流の経緯を跡付け、その今日的な意義を明らかにしようとするものである。

３．研究の方法

本計画は、近年の日印の文化交流の高まりを背景としたインドや日本での新たな史料研究の進展を踏まることで、これまで空白となっていた岡倉天心のインド知識人との交流の経緯を跡付け、相互の思想的な影響関係の広がりを明らかにする。

具体的には、その岡倉天心のインド体験を再検討するために、本計画では、特に次の、３つの課題に注目する。すなわち、①タゴールから見た岡倉天心との交流の経緯、②ヴィヴェーカーナンダから岡倉天心との見た交流の経緯、③上記の検証を踏まえることで、日印間の文化交流の経緯とその影響の広がりを明らかにすることである。

４．研究成果

本研究の成果の概要として、4 年間の研究期間を通して、国内・海外での積極的な成果の発信を行い、国内外の学会、研究会、招待講演などは、累計で 49 回を数えた。

そのうち、海外からの招待講演は、インドのアジア協会、デリー大学、国立タゴール国際大学、インド政府高等学術研究所、バングラデシュのバングラ・アカデミーからの招聘など、12 件を数えた。

また、国内では 5 件の招待講演を行い、国際人類学・民族学連合大会、国際ベンガル学会、日本文化人類学会、日本宗教学会など、内外の学会での成果の報告を行った。

関連成果の業績としては、査読付き論文は８本、分担執筆の図書は 6 本、共編著の図書は 3 本を数えた。その主な内容は、以下の通りである。

2016 年に刊行された論文として、特に、岡倉天心のインドでの活動について、日本ではなお未公開の資料に基づくことで、その近代の仏教復興運動に関わる新たな側面に光を当てた論考を、『アジア・アフリカ言語文化研究』(92 号、2016 年 9 月）に掲載した。また、この事例と関連する近代インドにおける宗教運動と英領インド政府の宗教政策との関わりについて検証した論考を、『日本研究』（第 53 集、2016 年 8 月）に掲載した。また、一般の読者に向けた啓蒙書（『名著で読む世界史 100』山川出版社）に、タゴールについて紹介する論考を掲載した。

2015 年度の業績としては、戦前期の仏教アジア主義者で、インドでの滞在を通してマハートマ・ガーンディーとの親交を深めたことで知られる藤井日達の事績を検証し、戦前の日本人のインド体験を通したアジア認識の形成過程を検証した論考を、『宗教と社会』（第 21 号）に掲載し、あわせてガーンディーの日本に対する認識過程について、特に広島に投下された原子爆弾への発言を通して検証した論考を、『広島平和科学』(Vol. 36) に掲載した。

2014 年の業績としては、特に日本ではこれまで注目されてこなかった岡倉天心の事績に関わる日本での史料を検証し、それをインドに残されている英領期の記録と対比して検証することで、日印交流の新たな展望を可能にする分析視点を提示する論考を、『南アジア研究』(第 25 号）に掲載した。この内容は、日本南アジア学会で報告されるとともに、インドの国立タゴール国際大学やコルカタのアジア協会などの招待講演でも報告されることで、日印交流の歴史的経緯を明らかにする、新たな可能性を展望した。

2013 年度については、研究の初年度にあたるが、この年には、岩波書店の『文学』(2013 年 11･12 月号) より依頼を受けることで、「タゴールとノーベル賞受賞の 100 年―二つの『ギーターンジャリ』をめぐって」と題する論考を掲載した。

以上のような業績に基づくことで、今後は、その成果の体系化を進める計画となっている。特に、天心のインド滞在の前半期に深く関わるスワーミー・ヴィヴェーカーナンダとの交流の概要は明らかにされてきたが、なお後半のタゴールとの交流については、なお検証の余地が残されている史料が多く、今後の課題として取り組む計画である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　８件）

１）　　外川昌彦

Fakir Lalon Sani: Upanibesh-Uttar Bangla Anchaler Dharmiya Cintadhara　（ベンガル語、「フォキル・ラロン・シャハーポストコロニアル・ベンガルにおける宗教思想」）

Bhabnagar: International Journal of Bengal Studies, Vol.4, Bhabnagar Foundation, Dhaka、2016年4月、pp. 451-466. 査読有

２） 外川昌彦「英領インドにおける岡倉天心のブッダガヤ訪問について―スワーミー・ヴィヴェーカーナンダとラビンドラナート・タゴールとの交流から」『アジア・アフリカ言語文化研究』92 号、2016 年 9 月、pp.181-205. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 査読有

３） 外川昌彦「ダルマパーラのブッダガヤ復興運動と日本人―ヒンドゥー教僧院長のマハントと英領インド政府の宗教政策を背景とした」『日本研究』第 53 集、2016 年 8 月、国際日本文化研究センター、pp.189-230, 査読有

４）外川昌彦 「藤井日達の西天開教とマハトマ・ガンディーの植民地主義批判―近代日本仏教のアジア布教とインド」『宗教と社会』第 21 号、2015 年 6 月、「宗教と社会」学会、pp. 1-15. 査読有

５）外川昌彦 「マハトマ・ガンディーと原子爆弾―核抑止論と非暴力運動の意味」『広島平和科学』広島大学平和科学研究センター、Vol. 36、2015 年、pp.1-24. 査読有

６） 外川昌彦 Banglar Lalon Fakir o Islami Sufi Darshan （ベンガル語、「ベンガルのラロン・フォキルとイスラームのスーフィー思想」）Bhabnagar: International Journal of Bengal Studies, Vol.2, Bhabnagar Foundation, Dhaka、2015 年 4 月、pp.23-32, 査読有

７） 外川昌彦 「シャンティニケトンの岡倉天心―1902 年の英領インドにおけるタゴールとの出会いについて」『南アジア研究』第 25 号、2014 年、pp.31-44. 日本南アジア学会, 査読有

８） 外川昌彦 「タゴールとノーベル賞受賞の 100 年―二つの『ギーターンジャリ』をめぐって」『文学』岩波書店、2013 年 11・12 月号、pp.119-138. 査読有

〔学会発表〕(計 ７件)

１）外川昌彦
「ヴィヴェーカーナンダの宗教観の変遷―仏教とヒンドゥー教」日本宗教学会、早稲田大学、2016 年 9 月 11 日

２）外川昌彦
「ダルマパーラのブッダガヤ復興運動とシンハラ人ナショナリズムー英領インド政府とヒンドゥー教僧院長マハントの対応を背景として」2016 年 6 月 11 日、「宗教と社会」学会、上越教育大学

３） 外川昌彦
Introduction: Islam, Nationalism and Shahbhag Movement: Beyond Bipolar Politics 国際ベンガル学会、2015 年 12 月 12 日、東京外国語大学

４） 外川昌彦
「近代インドのブッダガヤ復興運動―岡倉天心とタゴールの交流」日本宗教学会、2015 年 9 月 3 日、創価大学

５） 外川昌彦
「バングラデシュの国民統合とイスラームーシャハバグ運動とポストコロニアルの二重拘束」 日本文化人類学会、2015 年 5 月 30 日、国立民族学博物館

６） 外川昌彦
Liberation War of Bangladesh and “Secularism” Principle in the 1972 Constitution, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES), Makuhari, Chiba, Japan, 15, May, 2014

７） 外川昌彦
「変貌するバングラデシュ社会の光と影―周辺から見た南アジア世界」20131006、日本南アジア学会、広島大学、パネル報告・趣旨説明

〔図書〕(計 ８件)

１） 外川昌彦
『名著で読む世界史 100』山川出版社、2016 年８月、pp.342-344. 分担執筆

２） 外川昌彦
『アジアの社会参加仏教ー政教関係の視座から』櫻井義秀・外川昌彦・矢野秀武編集、北海道大学出版会、pp.363-377、共編著

３） 外川昌彦
『シリーズ現代インド・第一巻・多様性社会の挑戦』田辺明生・杉原薫・脇村孝平編、東京大学出版会、2015 年 3 月、pp.259-278. 分担執筆

４）外川昌彦
『よくわかる宗教学』、櫻井義秀・平藤喜久子編、ミネルヴァ書房、2015 年 3 月、pp.80-81、分担執筆

５） 外川昌彦

『森羅万象のささやき』鈴木正崇編、風響社、2015 年 3 月、pp.57-76.　分担執筆

６）外川昌彦
『インドを旅する 55 章』、宮本久義・小西公大編集、明石書店、2017 年刊行決定、分担執筆

７）外川昌彦
『叢書・激動のインド 1―変動のゆくえ』水島司編、日本経済評論社、2013 年 12 月、pp.125-144. 分担執筆

８）外川昌彦
『イスラームと NGO―南アジアからの比較研究』、外川昌彦・子島進編集、2014 年 3 月、人間文化研究機構地域研究間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」、pp.19-69. 共編著

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
外川昌彦　(TOGAWA, Masahiko)
東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所　准教授
70325207

研究者番号：

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　)